

# 『何からの救いなのか？』

'23/05/28



聖書箇所：新約聖書から随所

今日は、一般的には、「ペンテコステ」を記念する日ですが、でも、今日は、この聖書のみことばが「最も大切である」と教えてくれている救いについて、ご一緒に考えたいと思います。…まず、クリスチャンの皆さんに質問させていただきます。皆さんは、“何から”救われました？…聖書のみことばは、どう教えてくれています？…実は、つい最近、この質問を水曜日の「聖書の学び」でさせていただきました。…すると、10人ほどの方が、それぞれ、十人十色の回答をしてくださって、どれも皆、間違いではありませんでしたが、…申し訳ありません、私が期待したようなお答えはありませんでした…。

どうか、皆さん、次の例文を聞いてくださいますか？…①「先日、私は火事から救われた。」、②「大谷選手ホームランで、ピンチから救われた。」…これらは2つとも、「救われた…」という内容ですが、何から救われたのか？という対象が全く違います。でも、それによって、同じ「救われた」という言葉を使っている、その危機感と言うか…、その、「危うく受けそうになった被害の大きさ」には、天と地ほどの差が有り得る、ということが分かります。

このように、私たちは、「救われた！」ということを理解していても、「じゃあ、何から救われたのですか？」という問いに対して、正しく理解できていないと、私たちが受けた恵みについて、正しく理解できていない可能性があるのではないのでしょうか？…例えば、ある方は、こんな風におっしゃるかも知れません。「私は、教会に来るようになって、“寂しさから”救われました」、「私は、神様を信じるようになって、自分なんて死んでも良いという“虚無感から”救われました」、「私は、イエス様を信じてから、他人と比べなくても良いと分かって、それまで持っていた“劣等感から”救われました」…なんて、おっしゃるかも知れません…。

## 命題：私たちは、何から救われたいいけないのでしょうか？

いかがでしょう？…正直言って、これらすべては、何も間違った理解であるとは思いません…。でも、私たちが今日考えたいことは、「聖書のみことばは、どう教えてくれているか？私たちが、何から救われたいいけないか？」ということなのです。…確かに、教会に来て、イエス様を信じ救われることで、様々なものから救われる、ということは実際に有り得ますし…、私自身も、いろいろなメリットを経験してきました。…しかし、今日、私たちが考えたいことは、私たちが、何から、“1番に”救われたいいけないのか？この聖書のみことばが教えてくれている…、救いに関する“最大のメリット”は、何なのか？ということなのです。

どうか、この聖書が教えてくれている、「最も大切な教え」である救いに関して、私たちが正しく理解できるように…、そして、私たちにに対して、神様がなしてくださった大きな恵みについて正しく知ることができるために…、そしてまた、私たちが、この救いのメッセージを正しく伝えていくことができるために、今日のメッセージをお聞きいただきたいと思います。

## I・神の怒りから！（ローマ 5:8-11）

「私たちは、何から救われたいいけないのか？」…今日、まず、1番に訴えたいことは、神様です！私たちが、神様から救われたいいけないのです！…多分、今、多くの方たちは驚かれたでしょうけれども、現実にはそんなのです！…もう少し、詳しく言い換えますと、“神の怒り”と言った方が良いでしょう。私たちが皆、神様の怒りから救われたいいけないのです。…まずは、そういったことを確認していきましょう。どうぞ、ローマ書 5:8-11 のみことばをご覧ください。そこには、こう記されてあります。

8 しかし私たちがまだ罪人であったとき、キリストが私たちのために死んでくださったことにより、神は私たちに對するご自身の愛を明らかにしておられます。

9 ですから、今すでにキリストの血によって義と認められた私たちが、彼によって神の怒りから救われるのは、なおさらのことです。

10 もし敵であった私たちが、御子の死によって神と和解させられたのなら、和解させられた私たちが、彼のいのちによって救いにあずかるのは、なおさらのことです。

11 そればかりでなく、私たちのために今や和解を成り立たせてくださった私たちの主イエス・キリストによって、私たちは神を大いに喜んでいるのです。

### ●神からの警告！

皆さん、分かってくださいましたか？…今読んだみことばの9節に、『神の怒りから救われる』とありましたでしょ？私たちが皆、神様の怒りから救われたいいけないのです！…ですから、実際、私たちが少し前に学んだみことばですけれども、ルカ伝 12章で、イエス様は、こう弟子たちに教えてくださっていました…。『恐れなければならぬ方を、あなたがたに教えてあげましょう。殺したあとで、ゲヘナに投げ込む権威を持っておられる方を恐れなさい。そうです。あなたがたに言います。この方を恐れなさい。』（ルカ 12:5）って…。

⇒ここでイエス様が教えてくださっている『ゲヘナ』とは、私たち人間が「最後の審判」を受けた後に送られる…、あの、「永遠の裁きを受ける場所」のことです。黙示録 20章では、「火と硫黄とが燃えていて、そこに入れられたら、永遠に昼も夜も苦しみを受け続ける」ということが教えられてある…、あの場所です。多分、私を含め多くのクリスチャンたちは、分かりやすく、「地獄」と呼んで、恐れていると思います。

良いですか？皆さん。…ひょっとしたら、私たちは、その地獄へ、多くの人間たちを引きずり込むような邪悪な存在を悪魔…、サタンだと勘違いしてしまっているかも知れませんが、実際は、そうではありません！私たちのことを、その地獄へ送りこむのは、天の神様なのです！…そうじゃありません？

このことは、ヨブ記などを見てくださったら分かりますが、確かに、サタンは邪悪な存在ですが、でも、サタンは、天の神様の御許しなしには、何もできないのです！…確かに、サタンは、人間たちに病気を与えたり、罪へ誘惑したりしますが、…でも、そのサタンは、たった1人でも、人間を地獄へと引きずりこんだりできないのです。…私たちを地獄へ追いやってしまうのは…、そういった権限を御持ちなのは、真唯一の神様だけです！…そうでしょ？…だから、イエス様は、そのような権威を御持ちの神を恐れなさい！と教えてくださったのです。

どうか、皆さん、思い出してください。…例えば、あのバプテスマのヨハネは、悔い改めのメッセージを説きながら、こんな警告をしてくれました。ルカ伝 3章には、こう記されてあります。『7 それで、ヨハネは、彼からバプテスマを受けようとして出て来た群衆に言った。「まむしのすえたち。だれが必ず来る御怒りをのがれるように教えたのか。8 それならそれで、悔い改めにふさわしい実を結びなさい。『われわれの父はアブラムだ』などと心の中で言い始めてはいけません。よく言うておくが、神は、こんな石ころからでも、アブラムの子孫を起すことがおできになるのです。9 斧もすでに木の根元に置かれています。だから、良い実を結ばない木は、みな切り倒されて、火に投げ込まれます。』（ルカ 3:7-9）

⇒バプテスマのヨハネは、神の怒りを『必ず来る』という風に教え…、また、警告をしてきています。だから、私たちが、その前に…、いや、一刻も早くに悔い改めて、罪の赦しを受けたいいけないのです！…だから、バプテスマのヨハネも…、また、イエス様も、「悔い改めなさい！神の国が近づいたから！」（マタイ 3:2、マタイ 4:17、マルコ 1:15）というメッセージを説かれたのです。…ここ9節の『斧もすでに木の根元に置かれています』という言い回しは、「いつ、神様が、良い実を結ばない木を切り倒されるか分からない！いや、もうすぐかも知れない！」という危機感と切迫感を教えてくれています。

## ●聖書が教えてくれている神の、正しいイメージとは？

一体、どうしてなのでしょう？…どうして、天の神様は、そんなにも怒っておられるのでしょうか？⇒今日、最初に引用したローマ書 5 章のみことばは、こんなことを教えてくれました…、『私たちがまだ罪人であった…』とか、『敵であった私たち…』って…。良いですか？皆さん。天の神様が、私たち人間に怒っておられるのは、その神様が邪悪な存在だから、では絶対にありません！…邪悪なのは、私であり、また、皆さんなのです！いえ、すべての人間たちが皆、神様の前に、本当は、裁かれたいいけないような邪悪な存在なのです。…そうじゃありません？

だって、皆さんもよくご存知でしょう？…その昔、天の神様は、ノアの時代に、一体なぜ、洪水でもって、ノアの家族以外の人間たちを滅ぼされました？…創世記 6 章には、こう記されてあります。『5 【主】は、地上に人の悪が増大し、その心に計ることがみな、いつも悪いことだけに傾くのをご覧になった。6 それで【主】は、地上に人を造ったことを悔やみ、心を痛められた。7 そして【主】は仰せられた。「わたしが創造した人を地の面から消し去ろう。人をはじめ、家畜やうもの、空の鳥に至るまで。わたしは、これら造ったことを残念に思うからだ。」8 しかし、ノアは、【主】の心になんてか。』(創世記 6:5-8)と続きます。

この当時、ノア以外の多くの者たちは、主のみことばにかなっておらず、その心の中は、いつも悪いことばかり傾いておりました。…だから、造り主なる神様は、私たち人間を造ったことを悔やみ、その心を痛められたのです！（ちなみに、ここでの表現は、あくまでも、神様が経験された心の痛みを、私たち人間に分かやすいように表現されてあります。）

それだけではありません。どうぞ、今度は、創世記 18-19 章のみことばに注目してみてください。一体、なぜ、神様は、あの時、ソドムとゴモラの町を、天からの火でもって滅ぼされたのでしょうか？…創世記 18:20-21 のみことばは、こう教えてくれています。『20 そこで【主】は仰せられた。「ソドムとゴモラの叫びは非常に大きく、また彼らの罪はきわめて重い。21 わたしは下って行って、わたしに届いた叫びどおりに、彼らが実際に行っているかどうかを見よう。わたしは知りたいのだ。』と書かれてあります。

そして、次の章、創世記 19 章には、そのソドムの町の罪深さを、実際の目で見るために、2人の御使いが遣わされて、アブラハムのおい・ロトの元へとやって来ます。これは、余談ですが、幾つかの表現から、私は、この2人の内、片方は受肉前のイエス様だったと考えていますが、それは、今日の本題とは関係ないので、割愛させていただきます…。

この時、2人の男性に見えた、御使いたちがやって来たことを知ったソドムの町の者たちは、ロトの家を囲って、「その2人の男たちを知りたいから、連れ出せ！」というようなことを言ってきます。言わば、脅迫です。…ちなみに、ここに記されてある「知りたい」という表現には、ヘブル語の「מָדַע」(ヤーダー)という単語が使われてあるのですが、これは、性的な意味を含んでいます。…つまり、恐らく、ソドムの町は、同性愛という罪が溢れているような町であったのです！

ま、このように、ひょっとしたら、私たちは、ノアの時代の人たちだけが、特別悪かったとか、あるいは、ソドムの町の住民たちだけが性的に汚れていた、と思ってしまうかも知れませんが、でも、聖書のみことばは、決して、そう教えません！…神様が怒っておられるのは、現代も同じなのです。だから、ついさっき、引用したローマ書 5 章だけでなく、ローマ書 1 章のみことばもまた、「天から神の怒りが啓示されてある…」なんていうことを教えてくれているわけです。

どうか、皆さん、できましたら、エペソ 5:3-6 をご覧くださいませ？『3 あなたがたの間では、聖徒にふさわしく、不品行も、どんな汚れも、またむさぼりも、口にすることさえいけません。4 また、みだらなことや、愚

かな話や、下品な冗談を避けなさい。そのようなことは良くないことです。むしろ、感謝しなさい。5 あなたがたがよく見て知っているとおり、不品行な者や、汚れた者や、むさぼる者——これが偶像礼拝者です、——こういう人はだれも、キリストと神との御国を相続することができません。6 むなしいことばに、だまされてはいけません。こういう行いのゆえに、神の怒りは不従順な子らに下るのです。』とあります。⇒ここもまた、私たちが少し前に学んだみことばですが、神の怒りは、どのような者に対して下ると教えられておりましたか？…『不従順な子ら』でしょ？

そこだけではありません。どうぞ、今度は、ヘブル書 3 章のみことばをご覧ください。ヘブル 3:12-19、『12 兄弟たち。あなたがたの中では、だれも悪い不信仰の心になって生ける神から離れる者がないように気をつけなさい。13 「きょう」と言われている間に、日々互いに励まし合って、だれも罪に惑わされかたくなにならないようにしなさい。14 もし最初の確信を終わりまでしっかり保ちさえすれば、私たちは、キリストにあずかる者となるのです。15 「きょう、もし御声を聞くならば、御怒りを引き起こしたときのように、心をかたくなにしてはならない。」と言われているからです。16 聞いていながら、御怒りを引き起こしたのはだれでしたか。モーセに率いられてエジプトを出た人々の全部ではありませんか。17 神は四十年の間だれを怒っておられたのですか。罪を犯した人々、しかばねを荒野にさらした、あの人たちをではありませんか。18 また、わたしの安息に入らせないと神が誓われたのは、ほかでもない、従おうとしなかった人たちのことではありませんか。19 それゆえ、彼らが安息に入れなかったのは、不信仰のためであったことがわかります。』⇒いかがでしょう？ここでも、神は、どのような者に対して怒られる、ということが教えられておりましたか？…心が頑なな者たち…、罪を犯した人々、また、神に従おうとしなかった人たちじゃありません？

ひょっとしたら、私たちは、造り主なる真の神様のことを、ただ、愛だけの…、あるいは、恵みや憐れみだけの「優しい神様」をイメージしてしまっていないでしょうか？…申し訳ありませんが、それは、この聖書のみことばが教えてくれている「正しいイメージ」ではありません。この聖書のみことばは、神様が正しい…、義なる御方であるがゆえに、時に激しく怒り…、また、誰よりも聖い御方であるがゆえに、常に、私たちにも清さを要求される、ということを教えます。…そうじゃありません？

ヘブル 12:29 のみことばは、『私たちの神は焼き尽くす火です。』ということを教えてくれています。…果たして、この聖書のみことばが教えてくれている、正しい神様のイメージは、ただ優しいだけの…、愛や憐れみだけの…、まるで、年老いて、丸くなってしまったような神様なのでしょうか？

## ●多くの教会が発しているメッセージとのギャップについて…

正直、皆さんが今、多少の戸惑いのようなものを感じてしまっているのは、無理ありません。…と言いますのは、現代にあつては、ほとんどの教会が、この聖書が教えるのとは、かなり違った…、神様のイメージを発信してしまっているからです。

例えば、私が普段目にする SNS や HP では、真の神様が、髪の毛が薄くなった…、お年寄りのようなイメージで、しかも、何をしても怒らないような感じで描かれている場合が多いです。しかも、その神様がおっしゃることと言えば、大概は、「わたしの目にあなたは高価で尊い…(とか)、きみは愛されるため生まれた…。あなたは、そのまま良いんだよ…。すべて疲れた者、重荷を負っている者は、わたしのもとに来なさい。わたしがあなたがたを休ませてあげよう…」などと言ったような、まあ、間違いとまでは言いませんが、どれもこれも、私たち人間の側にとって都合の良いようなメッセージばかりです。…そうじゃありません？

でも、どうか、皆さん、真剣に考えてみてください！…今日、私たちが確認してきたように、真の神様とは、どのような御方でしょうか？…真の神様とは、ただ優しいだけの神様でしょうか？…神様は今、私たちすべての人間に対して、「あなたは高価で尊いとか、きみは愛されるため生まれた…、あなたは、あなたのままで良いですよ…」などと、本当に、おっしゃっておられるのでしょうか？

ちなみに、私は、幾つかの聖書のみことばから、こう考えています。…確かに、天の神様は、愛に溢れた御方で、私たちすべての人間たちを愛してくださっています。しかし、真の神様は、そのような愛だけの御方ではなく、それと同時に私たちを裁かれる御方でもあられます。…確かに、私たちは、SNS や HP…、あるいは、私たちが発するメッセージなどを通して、まだ、イエス様を信じていない方たち…、救われていない方たちが教会に来て、聖書のメッセージを聞いてくださることを願っています。

でもね、皆さん。私たちは、この真の神様を人々に伝え…、もちろん、この神様によって、人々が救われることを願っているわけですよね？…確かに、今日、私たちが確認してきたように、聖書のみことばは、神様が厳しさを御持ちであることを教えてくれています。また、神様は、私たちの救い主であられると同時に、私たちの裁き主であられることも教えてくれています。…なのに、私たちは、未信の方たちが少しでも多く、教会に来てくれることを願って、例えば、教会の HP や YouTube など、聖書のイメージとは違う…、ただ、優しいだけの神様を宣べ伝えるべきでしょうか？…それとも、私たちは、未信の方たちが、教会に来てくださった時に、前もって、HP や YouTube で聞いてくださったのと、違和感を感じることがないように…、また、人を救ってくださるのは、私たち人間の発するメッセージや言葉ではないために、聖書のみことばを曲げることなく…、できるだけ、真っすぐに伝えていくべきでしょうか？どちらでしょう？

### ● 神が備えてくださった、救い の方法

今日、私が最初に紹介したローマ書 5 章のみことばには、神様が、私たちの裁き主であられ、私たち人間に対して怒っておられると同時に、イエス・キリストという救い主を、私たちのために遣わされて、救いの道を完成してくださった！ということが教えられています。

良いです？皆さん、この聖書のみことばが教えてくれている真の神様は偉大です。例え、アメリカの大統領であろうと、天の御使いであろうと、あるいは、サタンであろうと、その神様に並ぶような存在ではありません。…でしょ？…ただ、神様だけが、その神様御自身のことを御存知であられ、その神様御自身だけが、神様のことをなだめることができるのではないのでしょうか？

ですから、そういった意味においても、神であられるイエス・キリストだけが、神様の怒りをなだめることができ…、それを実際にしてくださったのが、あの十字架であり、3 日目の復活なのです！一体、誰が、あんな恐ろしい十字架にかかって、しかも、そこからよみがえることができます？…私たち人間の内、そんなことができる者なんて 1 人も居りません。ただ、神であられ…、同時に、神と人間との仲介者として来られたイエス・キリストだけが可能であったのです（ I テモテ 2:5 ）！ そうですよ！

ですから、まだ、このイエス・キリストを信じる信仰による救いを受け取っていない皆さんへ、お勧めいたします。…私たち人間の如何なる教えであろうと、あるいは、如何に素晴らしい人物であろうと、また、厳しい修行であろうと、どれもこれも、私たち人間のわざによっては救われません！ただ、神であられるイエス・キリストだけが、私たち罪人を神の怒りから救うことができるのです！…どうか、1 日も早く、この救い主として来てくださったイエス・キリストを真唯一の神、そして、あなたの救い主として信じ救われてください！心からお勧めいたします。

## II・今持っている、罪のからだ から！（ I コリント 15:50-53 ）

さて、本当なら、ここで、今日のメッセージを終わっても良かったのですが、実は、今日のメッセージには、もう少し、続きがあります…。もうほとんど時間が無くなってしまったのですが、もう少しだけ、駆け足で、メッセージの続きをお聞きください…。私たちは、何から救われたいいけないか？…その 2 番目のものは、私

たち人間が今持っている“罪のからだ”から、です。私たちは、このからだを持っている限り、罪とは完全に離れることができません。だから、私たちは、この罪のからだから救われたいいけないのです。どうぞ、 I コリント 15:50-53 のみことばをご覧ください。そこには、こう記されています。

- 50 兄弟たちよ。私はこのことを言うておきます。血肉のからだは神の国を相続できません。朽ちるものは、朽ちないものを相続できません。
- 51 聞きなさい。私はあなたがたに奥義を告げましょう。私たちはみな、眠ることになるのではなく変えられるのです。
- 52 終わりのラッパとともに、たちまち、一瞬のうちです。ラッパが鳴ると、死者は朽ちないものによみがえり、私たちは変えられるのです。
- 53 朽ちるものは、必ず朽ちないものを着なければならず、死ぬものは、必ず不死を着なければならぬからです。

### ● 私たち人間が持つて生まれた、原罪 とは？

皆さんもよくご存知の通り、私たち人間は皆、罪…、もう少し言えば、「原罪」というものを持って生まれてきました。例えば、あのダビデが、詩篇 51:5 で、『ああ、私は咎ある者として生まれ、罪ある者として母は私をみごもりました。』と教えてくれているように、私たち人間は生まれ出てくる前から、罪というものを、そのからだの中に抱えて、生まれてくるのです。ですから、私たちは皆、ある時に罪を犯してしまって、その時に初めて、罪人になってしまうわけではありません。罪を持って生まれてきたから、罪を犯すのです。

だから、今読んだ I コリント書のみことばが教えてくれているように、私たちは今、持っているこのからだのまま、神様のおられる天へ行くことはできません。だから、私たちはいつか、この肉体から離れないといけないのです。…だから、そういった意味では、だんだん、年老いていくということは、神様が、そのための備えをしてくださっていると言うか、私たちに、その準備をするように教えてくださっていると、考えることもできます。

### ● 御霊なる神が、私たちにしてくださる 聖化 の働き

でも、そんな消極的なことだけではありません！…天の神様は、こんな…、罪とは決して離れられない肉体を持っている私たちに対しても、素晴らしい働きをなしてくださっています。それは、「聖化」という働きです。II コリント 3:18 のみことばは、こう教えてくれています。『私たちはみな、顔のおおいを取りのけられて、鏡のように主の栄光を反映させながら、栄光から栄光へと、主と同じかたちに姿を変えられて行きます。これはまさに、御霊なる主の働きによるのです。』って…。

このように、聖霊なる神様は、この罪に汚れたからだを持ってしまっている私たちのことを、日々、キリストに似た者へと変え続けていってくださっているのです。…これまた、私たちが最近学んだことですが、ピリピ書 1 章でパウロが証ししてくれているように、私たち人間が、このからだを持ったまま、生きながらえるよりは、このからだから離れて、天へ挙げられた方が、はるかに素晴らしいのです。…そうですよ？皆さん！

## III・死の恐怖 から！（ピリピ 3:17-21）

どうぞ、最後に、私たちが救われるべきものの、3 つ目を確認していきましょう。それは、私たち人間を、ある意味、1 番恐怖に陥れてきた“死の恐怖”であります。私たちは、この“死の恐怖”に対しても、打ち勝つことができるのです！…どうぞ、ピリピ 3:17-21 のみことばをご覧ください。そこには、このように記されています。

- 17 兄弟たち。私を見ならう者になしてください。また、あなたがたと同じように私たちを手本として歩んでいる人たちに、目を留めてください。

18 というのは、私はしばしばあなたがたに言って来たし、今も涙をもって言うのですが、多くの人々がキリストの十字架の敵として歩んでいるからです。

19 彼らの最後は滅びです。彼らの神は彼らの欲望であり、彼らの栄光は彼ら自身の恥なのです。彼らの思いは地上のことだけです。

20 けれども、私たちの国籍は天にあります。そこから主イエス・キリストが救い主としておいでになるのを、私たちは待ち望んでいます。

21 キリストは、万物をご自身に従わせることのできる御力によって、私たちの卑しいからだを、ご自身の栄光のからだと同じ姿に変えてくださるのです。

### ●『栄光のからだ』の特徴！

このみことばが教えてくれているように、多くの人たちは、イエス・キリストによる救いの道を知らないどころか、キリストの十字架の敵として歩んでおられます。その行き着く先は、先程見たように、「永遠の滅び」、『ゲヘナ』です。彼ら、未信者たちは、自らの欲望に従っていて…、彼らの思いは、確かに、この地上のことだけです。…しかし！ 私たちクリスチャンは、そうじゃありませんでしょ？

ここ 20 節では、『私たちの国籍は天にあります』と現在形で書かれてあります通り、私たちクリスチャンは、今もう既に、天に国籍を持っている「天国民」なのです！だから、救われたクリスチャンたちは皆、イエス様が、天から、私たちクリスチャンたちのことを迎えに来てくださる…、あの「空中再臨」という恵みを待ちわびています…（ I テサロニケ 4:13-18）。

その時、私たちが今持っている、この罪のからだを神様の全能なる力によって変えられて、『くちないもの…』、つまり、復活後のイエス様がそうであったような『栄光のからだ』に変えられるのです！…復活後のイエス様は、当時、12 弟子たちがユダヤ人たちを恐れて、戸が閉められてあつたはずなのに、そこに突然、復活後のイエス様が現われました。そのように、復活後のイエス様が持つておられた「栄光のからだ」は、私たちのこのからだとは、いろいろな面で違うようです。私たちの、この罪のからだを、いつか、その栄光のからだに変えられるのです！

そもそも、死の恐怖というものは、私たちの先祖であったアダムとエバが、神様の命令に背いてしまった結果、罪の報いとして与えられたものでした…。しかし、天の神様は、その報いである「死の恐怖」でさえ、祝福へと変えてくださったのです！…と言いますのは、かつて、私たちは、死を一番に恐れていたからです。未信者の頃は、どれほど、この人生が素晴らしいものであろうと、死が来たら、もうすべてが終わりです。どれほど、私たちが健康に気を遣っていたとしても、いつか必ず、死を迎えないといけなくて、その後には、はっきりとは知らなかったでしょうけれども、永遠の裁きが、私たちのことを待ち構えておりました…。この死の恐怖に対しては、どんな権力者であろうと、どんな偉人であろうと、どんなに知恵ある者であろうと、決して、勝利できない…。決して、逃れることができませんでした。それが、私たち人間の運命でした…。

しかし、私たちが救ってくださった真の神様は、そんな、どうしようもなかった「死の恐怖」でさえ、祝福へと変えてくださいました。…と言いますのは、もう私たちは、死をむやみに恐れていないからです。私たちクリスチャンにとって、死とは、永遠の祝福へ入るための入り口であり…、イエス様にお会いできるという念願が叶う瞬間でもあります。まさしく、「産みの苦しみ」なのです。そうでしょ！

### <励ましの言葉>

このように、私たちが救われるべきものは、すべて…、私たちが真の神であられ、唯一の救い主であられるイエス様を信じ救われることで、解消されます。…もちろん、それらは、私たちが何か少しでも偉大なことを成し遂げたというのではなく…、神様がすべてのことを成し遂げてくださったのです！

でも、残念なのは、まだ、この地上で、ほとんどの方たちが、この素晴らしい神様を信じず、救いの恵みを拒んでおられるという現実です。…ヘブル 2:3 のみことばは、『私たちがこんなに素晴らしい救いをないがしろにした場合、どうしてのがれることができましょう。…』と教えます。今日、このメッセージを聞いてくださっている方…、全員に対して、天の神様は、救いのための道を備え…、そこから入って救われるよう、招いてくださっています。今、あなたは、神の怒りから…、また、罪のからだから、そして、死の恐怖から救われることができるのです！どうか、こんな素晴らしい救いをないがしろにすることなく…、また、せっかくの、神様の恵みをムダにしないよう、1日も早く、このイエス・キリストを真唯一の救い主、あなたが信じ従うべき神、そして、あなたのご主人様として信じ救われてください！最後に、お祈りをもって、今日のメッセージを終わらせていただきます。